

第4回善通寺市子ども・子育て支援会議 議事録

1 日 時 平成26年5月29日(木) 午後15時30分～

2 場 所 善通寺市庁舎2階 第3会議室

3 出席者

会 長

副会長

委 員 11名

欠 席 2名

4 会議の概要

1. 開会

2. 議事

(1) ニーズ調査による量の見込みについて

(2) 子ども・子育て支援事業計画の骨子案について

3. その他

4. 閉会

5 資料

資料1 見込み量について

資料2 市町村子ども・子育て支援事業計画に記載する項目について

6 会議録

【1. 開会】

[事務局] 本日の会議の資料でございますが、次第1枚と議員名簿があるかと思えます。その他の資料と致しましては、前もってお渡しいたしました資料の1と2があります。(事前資料の確認) それでは、会議につきましては、次第に沿って進めて行きたいと思えます。では、課長のほうから一言ご挨拶申し上げます。

[課長] 皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、ご参加くださいましてありがとうございます。今年度、最初の会議となります。昨年度のニーズ調査の結果を受けまして、来年の3月末までに、事業計画の方を作成するという重大な事項の方をまたお願いすることとなります。忌憚ないご意見をいただきたいと思えます。よろしく願いいたします。それでは、議事に入りたいと思えますので、会長よろしく願いいたします。

【2. 議事】

見込み量についてについて

[会長] 皆さん、こんにちは。本年度1回目の子ども子育て会議となります。前年度、ニーズ調査の結果報告をもらいまして、今の国の動向をみていて、4月からいろいろな形のパブリックコメントが出ていまして、例えば、幼稚園での教員の配置の問題、公立の施行の関係が出ていて、26日辺りから6月始めぐらいにまでに同時並行で進められています。今日の議論は前年度ニーズ調査に基づいて、これからの量の見込みをある程度出しながら最終的には実際に善通寺での子ども子育ての計画書作りとなっております。では、事前にお渡しした資料から、ニーズ調査の量の見込みのところ、事務局の方からご説明いただきたいと思います。

[事務局] (資料説明)

[会長] ありがとうございます。国のマニュアル通りで算出されているところですが、皆さんから質疑応答があればお願いします。

[草薙委員] P12の⑧で地域子育て支援拠点事業の実績数値がよくわからない。

[事務局] 子どもの延べ実績となっております。

[委員] 9番の一時預かりの検証2ニーズの詳細に書いてある意味がわからない。

[事務局] 幼稚園の一時預かりについて、2号に該当する場合は、一時預かりが定期的に必要になるだろうという国の見方がありまして、回答者の方のご両親が現在就労している日数で一時預かりが必要である、という考え方にに基づき算出してください、という国の手引きに基づいて算出しているものです。

[会長] 共働きしている、働いている人が年間に就労を何日しているか、その最大値として算出しようということで、ニーズ量としては最大値。これ以下になることはあるがこれ以上になることはないということであろうという数値ですね。

[委員] P12の⑦ショートステイの実績数値はどういうことですか。

[事務局] ほぼ実績がないですが、利用する子どもが出た場合(年度)に、このような数値になってしまう。見込みについてはニーズもなかったため、ごく少数が利用すると仮定して見込んでいます。

[会長] 計画の難しいところ。実際にニーズ調査をしましたが、その時のニーズ調査が実際には実績にはプラスされたり、マイナスされたりがある。

[委員] 数字が大きければ、利用があるという評価の仕方はどうなのかと思う。少なくとも必要な支援であれば少人数でも見極めていかないと、バランスがあるから協議していかないといけない。

[会長] 見込み量に関して言うと、ある程度人数というものがあるのかもしれないけれど、国の公式があってそこで見込み量を出しているんだけど、今後の事業計画を作っていく時に、数字で問題となるようなところがあるとすれば、どのように盛り込むかということが次の議論になる。この数値に関しては、実績的に見込み量を決めたけれど、実際はどうなのかというところで、現状からすると、ショートステイのような事業については、サービスを知っている人は利用するが、知らない人は利用しないというところがある。

[委員] サービスを知っていても（利用を）待てないと言うところもあるし、なかなか、こちらから強制的に利用してとは言えないし、難しいところだと思います。

[会長] そのこの辺のところをどういう形でやっていくかということである。子育て支援のサービスにアクセスする為の支援と言うものをどう考えていくのか。あるから利用すればいいというものではないけれど、その辺をどう議論していくかという課題はある。

[委員] 高学年におけるスディーアフタースクール、善通寺市は独特で、3歳から幼児預かりとなっていますが、それ以上の子どもも預かってほしいと議論があったんですね。では、園庭で3歳の子と11歳の子が遊べるかといったら難しいところで、部屋もいっぱいになるし、その辺り教育委員会との話し合いはどうなりましたか。

[事務局] それについては、条例も作らないといけないし、教育委員会で今から協議していく予定です。

[委員] 親の意向と子どもの意見とずれがあって、親は預けたいが、子どもは嫌とかで帰ったりする現実もあるようですね。

[事務局] 現状とニーズを照らし合わせて、国の大まかな部分を決めていきますので、善通寺市ではどの状態にするのがふさわしいのかというのを教育委員会と協議することになると思います。

[会長] 国の考え方とすると予算をかけずにしようという考えがどこかにあって、専属の職員は置かず、臨時の先生を置くとか、休んだときは、子ども支援員が行うとか、学

童なんかは狭いところでやったり、どうにもならない。保育所と違って最低基準が曖昧で、今後統合されたら、今まで曖昧だったところが、もう少しきちっと保育の質や支援の部分が良くなるかもしれない。

[委員] 3歳から預けるとなると、扱いも難しいし、専門的なところも心配になる。

[会長] 今までまちまちだった所が、ある程度の基準ができることで、下がったレベルを厳しく上げて行くと思うので、これから実際に自治体で運営していく時に、どういう問題が出てくるか。これからしっかりと見ていかなければいけない。

[副会長] 病児・病後児保育をやっているんですが、お母さんが急に預けられることがあり、時間的にも制限があるし、病気の流行で来るときは沢山くるし、来ないときは手持ち無沙汰になる。そういうことで、実際に病気の時は断ってしまうこともあり、利用したいけれど少ないし難しい。ニーズは平均ですが、せっかく利用しようとしても断ってしまうことが多くて、それが問題である。もう少し預かる許容量を多くすればいいんだけど、無い時は無いのでこれも問題である。3～4年前に各幼稚園に、病後児室を作るとか、看護師さん1人を置いて、病気になると幼稚園から病児・病後児保育へ移すというような話があった。それもそれで費用がかかる。

[事務局] 病児・病後児保育については、先生もおっしゃるように、流行してるときはすごく需要があって、そうでないときには例えば定員を4人にしていても0の日が続くとか、すごく難しい部分がある。できれば実施箇所を増やしたい。善通寺は2箇所あって、丸亀さんの方は一箇所しかない。(丸亀市は)今年度、もう1箇所増やしたいという希望があるということで、それに向けて努力されているようですが、箇所数を増やすのが一番解決方法にはなるのかなという気がしますが、できれば広域で利用が可能な、多少車で走っても、空いていれば利用できる、そういう融通の利かせ方ということ検討していけたらなとは考えております。

[副会長] 今広域で、他市町から来ると余分にお金をもらっている。高松なんかはものすごい数があって、すごい利用がある。

[事務局] まあ、その辺の部分も考えたいなと思っています。

[委員] 先生がおっしゃったように、丸亀がまだ一箇所なんで、広域でもうちょっとバランスよくできたら。

[副会長] 丸亀でも奥の方。高松には沢山あって、坂出の病院もほとんど従業員の為のものになっている。

[事務局] 本当は子どもが病気のと看ぐらい仕事を休める、そういう社会を作るのが本当は先決なんですよ。

[副会長] 会社、企業が本当はそのようにすることが大事だが、それをすごい風当たりが悪くて、もう一回休んだらクビと言われる。結局、子どもが何度も病気になって休むもんだから、会社をやめることになる、という話も聞く。企業が子育て中のお母さんに関しては、優先的に休みを与えてくれたら助かるが。

[事務局] 国も子育て支援と言いますが、根本的なところが手付かずなので、都会なんかは大変だと思います。

[副会長] 周りの人からは、またかと言う感じで冷たい目と言われる。広域にもう少しできることと、企業がもうちょっと優先できる制度ができればいいと思う。

[会長] 行政のサービスも市単独だけでは難しい。たぶん広域になると思います。広域で事業をやるとか、子育て支援で言えば、この辺でも善通寺がトップですから、どうやっていくか。この数字の方については、昨年度の見込みの調査があつて、その基に算出されて数字が出てきてますので、実際に数値が決まっても、実際はずれが出てくるので、国の予算でどうかというところで、いろいろ仕組みが変わっていく中で、市民の方々が制度を上手に理解して使うという、この辺が今までと違って、数年はここをやっていかないと、預ければいいのではなくて、何かしら工夫が必要になるかもしれない。

続いて、2つ目の方、子ども・子育て支援事業計画に対する記載する項目について、事務局の方から、説明してもらいます。

[事務局] (資料説明)

[会長] 有難うございます。おそらく善通寺らしさを出すと言えは、第3章理念とか、5章、6章になってくるんだらうなと思います。県内の各市町も似たような事業計画を作っていくと思うんですが、善通寺の今までの経過を経て、これからより発展していく、よりそれを推進していくと部分で言うと、どういう文言なりどういう言葉を入れていくかと、ここはかなり計画書を作る上では大事だらうなと思う。5章の2項目というところが、かなり差は出ると思っています。各市町ごとの考え方が色濃く多分出ると思っていますので、こういうところも含めて、感想とか、これはどういうことなのかとか、こういうことはやはり議論していったらとか、これからの議論につながることを発言していただくとありがたい。いかがですか。例えば、市に関すること、こんなのあればいいなとかでもいいです。

[委員] 先程、先生がおっしゃっておられました、病児・病後児保育なんどすけれども、どのようにすれば、逆に流行で増えた時に対応できるのでしょうか。面積の問題であったり、お部屋の問題であったり、ハードな面と、看護師さんの面とか、もう少し流動的に対応できるところを、市が応援していただけたら。難しいということはよくわかるんですが、対策が少しでも他の地域よりも早いとなれば、善通寺に安心して住めるなどと言う感じになると思うんです。子どもが急に病気になった時に、預けてお仕事に行かれるというのはすごく大変なことですし、やはり子どもさんが何かあった時に、例えばケガをした、病院に運ばれたと言う時に、お母さんになかなか連絡とれなかったり、来て下さるのに時間がかかったりしたら、やはり看護師は1人しかいないから対応できない、いざという時にどうすればうまくマッチングできるのかなというところなんです。病児・病後児保育で断わられることなく、待機の看護師さんがいてくださって、市がマッチングするなど、できないものでしょうか。

[副会長] 臨時のヘルパーやベビーシッターを雇って、という方法もある。

[委員] 普段は少ないんだけど、流行時に多く対応とするのは難しいのでしょうか。

[副会長] 同じ病気ではなく、違う病気の人も多いし、同室にするのも難しい。

[事務局] カナンは定員は4人を2名にしたんですが。

[委員] 2名だが、了承してもらい、病状によっては4名にしている。流行の時は難しい。

[委員] 善通寺だったら、香川看護専門学校とかありますね。

[委員] 教育の施設なので、突然お願いできない。

[副会長] 突然来てというのは難しい。高松は毎日電話してベビーシッターさんを集める。でも無いときは無いので、よほどフリーの人がいないと。

[委員] ベビーシッターは高いでしょう。

[副会長] 一時預かり8,000円とか、1時間1,000円とか、高すぎて預けられない。

[会長] 安ければ、この前、報道で事件もあったし、病後児保育と補完するようなサービスであれば、小規模保育、家庭的保育など、考えられないわけではない。何か新しい制度で補って行けるような物が有り得るかもしれない。

[事務局] ホームヘルプサービスは高齢の方、元看護師もいらっしゃいますが、養成講座を受けた方で、少しの知識を持っている方ですが、元気なお子さん対象です。

[委員] 私の家は主人の地元で母と同居なので、母に子どもを預けて仕事に行っている。母の親友にも預かってもらっている時もある。小さい地域の中で見ていただける方、幼稚園に行ってるお母さんや仕事をされていない方等に子どもを相互協力して、気軽に身近で見てもらえる方がいるといい。

[副会長] 同居が一番いい。今は同居してないし、シングルマザーで、仕事も抱えて子どものことも大変ですし、でも孤立している。

[委員] 地域の中で、協力し合うようなエリアがあればいい。

[委員] 自衛隊の夫婦がいるし、近所同士で助け合いしてほしい。

[委員] 市の施設や相互協力等、いろんな選択肢があればいい。

[副会長] できる人はそうしている。高知からおばあちゃんを呼ぶとか。

[会長] 病児・病後児も、そういうところを議論して頂くことをお願いしたい。現状からどういう方向に、善通寺の子ども子育ての取組みをすすめるのか、もしくは現状として今の段階においてできる状況にはなっていないが、これはやはり必要となってくるのではないかというところをいかにして意見を出して、盛り込んで行くかというのが善通寺らしさになっていく。現状でできること、現状ではできなかったことが新しい制度になってできることで何があるのか、新しい制度になっても残る課題もあるのできちんと明記しておくことが大事。地域の中のつながりをどういう形になるか、地域の取組みは、行政が地域に投げるが、高齢者ばかりで担い手がない。ボランティアではできなかったことを、新しい支援は、費用を出してやっていく。具体的に、こうやっていこうという意見がでてくる。

[委員] 善通寺はサービスサービスと言うから、損得勘定がでてくる。それをするには代償を払ってでもする社会作りが必要。昭和53年から住んでいて、ずっと人口は3万7千人だったのが、つい最近、人口が減ってきて3万3千人をきった。なぜか。地方の自衛隊へ行く人、児童センターへ行く人、そういう人は、住む場所と定期的な収入がちゃんと入っているという環境があると思う。

[会長] 最近では、結婚しても女性は仕事を持つ、これが半数超えている。子育てと言うよ

りは、女性は仕事をするという社会になっているので、子育てをどうやって両立させていくか、個人では限界がある。明らかに地域社会は消滅していくが、どうやって歯止めかけるか。例えば、周りの人がすごく温かいとか、最終的にはそういうふうな感じに落ち着くと思う。

[副会長] この前の報道発表で、善通寺は消滅する自治体に足をつっこんでいる。

[事務局] 善通寺は、ありがたいことに自衛隊がありますので。

[会長] 消滅しているというような、危機感を持ったほうがいい。いろんな人たちが住みよいまちづくりはどうするのか。

[副会長] しばらくすると介護の問題がでてくる。それが終わったあと消滅していく。

[会長] お年寄りがお金をもっている、使わなくなったら、経済が回らなくなっていく。そういうような社会情勢なので、そうならないために、未来が明るくなるように、考えとか方向性とかを事業計画の中に入れられて、ちょっと善通寺の他とは違うなというようなのができるといい。どこの市町の並べても同じというようなのより、善通寺っぽい感じがいいですね。今日はこのぐらいでよろしいですか。

[事務局] 今後の予定としましては量の見込み等を受けて、素案をお示したいと思います。またご案内の方、資料を事前にお送りして、ご案内を差し上げたいと思いますので、よろしくをお願いします。

[会長] 以上で終わります。ありがとうございました。